

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491900039	事業の開始年月日	平成20年8月1日	
		指定年月日	平成20年8月1日	
法人名	社会福祉法人 興寿会			
事業所名	グループホーム 興寿苑			
所在地	(239-0802)			
	神奈川県横須賀市馬堀町1丁目11番5号			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成21年11月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://center.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々との交流を大切に考えております。近隣からのご入居者もおり、ご家族もよく面会にお越し下さいます。
 地元中学校の福祉実習の受け入れや、地域の方々との交流を通じ、地域住民の一員として、福祉、医療、保健等の関係機関と連携を図り、住み慣れた町で、個人の尊厳に配慮しながらその能力に応じてできる限り自立した日常生活が安心して送れるよう支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成21年12月7日	評価機関 評価決定日	平成22年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

◆「自分が入りたいと思うホームにしよう!!」を合言葉に、個人の尊厳に配慮し、利用者の生活リズムを大切にしながら、明るく家庭的な雰囲気の中で自立した生活が送れるよう支援している。
 ◆利用者一人ひとりの希望に合わせ、天気の良い日には散歩や買い物に出かけている。また、庭や玄関前のスペースを再整備し、テーブルやイスの配置、家庭菜園、枯山水をあしらった中庭なども活用して、戸外に出る機会を作っている。
 ◆四季折々の行事を企画し、家族にも参加してもらい、利用者、家族がともに楽しめるよう工夫している。事業所主催の夏祭りには、家族や地域の方々を招待したり、ボランティアによる歌唱や民謡、地元中学生の福祉体験実習を受け入れるなど、地域との交流を図っている。
 ◆看護師を配置し、医療機関と連携して、重度化、ターミナルケアに対応する方針である。
 ◆災害発生時に備えて、夜間の想定も含めた避難訓練を定期的実施している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 興寿苑
ユニット名	グループホーム 興寿苑 1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板に理念を掲げ、共有しています。「その人らしい生活」を送って頂いているか、毎月の会議時に確認し、利用者の思いや意向に沿った支援の実現に努めている。	開設時に全職員で話し合い、「自分が入りたいと思うホームにしよう!!」を目標として掲げ、フロア会議などで話し合い、日々の介護に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には、近隣住民と挨拶を交わしたり、町内会に加入し、回覧や町内会長から地域の情報を得ている。当ホームでの夏まつり・敬老会には近隣に声を掛け、参加して頂いている。	町内会に加入し、近くの神社祭りなどに参加している。事業所主催の夏祭りには近隣に声をかけている。理美容や、歌唱、民謡などのボランティアの来所がある。また、地元の中学生の福祉体験実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の一員となるには、認知症の理解を得ることが急務と考えている。町内会の集まりで認知症に関する講座を設けることを、現在町内会長・民生委員と調整中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の事業者運営推進会議、年2回の地域運営推進会議を通じ、家族・民生委員・町内会長及び市、地域包括支援センターとの意見交換や要望を頂き、サービス向上に努めている。	利用者、家族、町内会長、民生委員、市及び地域包括支援センター職員が参加し、3カ月ごとに開催している。会議では運営報告を行い、出席者より意見等を聞いている。地域との交流の活性化に向けて意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年2回の地域運営推進会議の席や、直接市役所に出向き、相談に応じて頂いている。また市の担当部署主催の研修会に参加するなど、意見交換を行い、良好な協力関係を築いている。	市に入居条件を相談したり、メールで空き室情報を報告している。また、市主催の研修に参加するほか、横須賀市認知症対応型共同生活介護事業者連絡協議会出席の際に、市の職員と意見交換をしている。	

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームの「身体拘束等行動制限についての取り扱い要領」に基づき、職員間で具体的な内容を周知・共有しケアに取り組んでいる。	法人の研修委員会に管理者が出席し、事業所のフロア会議で「身体拘束等行動制限についての取り扱い要領」を職員に解説し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関は防犯のため、家族の同意を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には、必ず参加し、参加資料を職員間で供覧し意識を持って虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修等参加により理解しているが、成年後見人制度・地域福祉権利擁護事業等、十分な周知、理解は図れてなく活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除時には、利用者家族が安心して頂ける様、明確に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や、事業者運営推進会議時に、要望・意見をお聞きし、会議などで話し合い、運営に反映している。	家族の来訪時や電話の際に、気軽に話してもらえるよう努めている。運営推進会議でも利用者、家族の意見を聞き、運営に反映している。苦情は法人本部と連携して解決することになっており、苦情解決の手順を各ユニット玄関に掲示している。	

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が月1回の会議にて職員の意見や提案を収集し、法人内の運営会議にて代表者へ報告し、法人全体で共有し意見や提案を反映している。	月1回開催のフロア会議で、管理者が職員の意見・要望・提案を聞くようにしている。内容によっては、法人内の運営会議で検討することもある。また、職員のスキルアップのため、管理者が年1回個人面談を行い、意見・要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況を把握する為に、運営者は年2回の自己考課表の提出を義務付け、管理者が適切に評価し、適材適所の配置を心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修会や、その他外部研修にも積極的に参加している。また、管理者が中心となりOJTを主体に日常的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区の4事業所合同で開催している地域運営推進会議では、情報交換や勉強会を行っている。また、横須賀市グループホーム連絡協議会主催の交換研修等に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に話を良く聴くことを大切にし、受容するように心掛けている。本人の不安や思いを受け止め、信頼関係づくりに努めている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にホーム見学や事前面接を行い、困りごとなどの傾聴を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応出来るものは即実行し、即実行不可能なものは、関係機関と連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を尊重し、人生の先輩として様々な指導を受けている。貴重な意見を生活環境の改善に役立っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告・相談を常に行うことにより、共に利用者へ様々な視点から支援できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴等を十分把握した上で、面会時間や外出等の調整を行っている。	利用者の生活歴や交友関係を把握し、旧友や知人の来訪を勧めており、詩吟の仲間の来訪がある。また、電話の取り次ぎを行ったり、行きつけの美容院や店に買い物に出かける機会を作っている。	

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々が孤立しないよう、職員が間に入り、利用者同士の架け橋になれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、様々な意見や相談を受け入れ、交流を継続している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族から生活歴等を聞き取ると共に、日常会話や表情・態度から本人の意向を読み取るように心掛けている。	利用者の思いや意向は、アセスメントで把握するとともに、日々の行動を観察して経過を記録し、申し送りやフロア会議の際に共有している。意向の把握が困難な利用者には、家族に聞いたり、日頃の行動や表情を通して把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーからのケアプランや、利用前の本人、家族との事前面接をもとに、生活歴、暮らし方等、在宅生活の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体、精神面の状況を集約し、職員間において現状を各種記録表にて多角的に把握し共有している。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、様々な視点からの意見を取り入れ、利用者個々の状況に合わせた介護計画を作成している。	毎月1回カンファレンスを開催し、利用者、家族の意向を聞き、かかりつけ医や認知症専門医等の意見をもとに、全職員で話し合い介護計画を作成している。6か月ごとに見直しを行い、状態に変化があった場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、ケース記録等に記載し、記録と共に申し送りを行い情報を共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者や家族の目線に立ち、外出・外泊、リフト付車を用いて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々に、理美容や民謡等のボランティアにお越しいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者希望のかかりつけ医の継続を行い、個々の状態を把握に努めている。変化が診られる際には早期対応ができる体制を築いている。	入居前のかかりつけ医か、事業所の協力医療機関を選択することができる。かかりつけ医への通院には、職員が付き添っている。	

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員及び協力医等からのアドバイスをもとに、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、協力医を通じ、また直接情報提供を行い、早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時及び終末期における介護が必要になった場合に、指針に基づき当ホームでの対応できる範囲を説明・同意を得て、常に医師、看護師及び家族との連携を図り、情報を共有している。	「看取り対応指針」を整備し、入居時に説明している。利用者、家族から希望あれば、医療機関と連携し、段階に応じて対応する方針である。これまでに1名の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを用いて、対応するよう職員に徹底している。また救急法の研修にも定期的に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行うと共に、地域の方々にも協力依頼をしている。	夜間想定避難訓練を年2回実施している。地域の方の協力や消防署立ち会いでの訓練を、平成22年2月に実施する予定である。非常食・飲料水等は、同一法人の特別養護老人ホームと共同で備蓄をしている。	

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への配慮を心掛けた声掛けができるよう、採用時に接遇に関する研修を行っている。	人格の尊重やプライバシーの確保について、入職時に説明するとともに、日頃からフロア会議でも議題として取り上げ指導している。重要書類は事務室に施錠保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望・自己決定を尊重し、本人の意思やレベルに合わせた支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と一緒に買物に出かけたり入浴時間など、個々の生活リズムに沿った支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる理美容サービスに月1回来て頂いている。またパーマ・毛染め等の希望の場合は近隣の美容院まで付き添いを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに合わせ、食事の準備や下ごしらえ、後片付けなど、職員と一緒にしている。	調理や片付けなど、できることを職員と一緒にしてもらい、食事は、利用者と職員が同席して、楽しみながら食べている。一人ひとりの嚥下状態にあわせ、食事を提供している。行事食や買い物の際に立ち寄る喫茶店も利用者の楽しみになっている。	

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を法人の管理栄養士に確認して頂き指導を受けている。食事摂取量及び水分摂取量を都度記録に記載し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて口腔ケアを行い、週1回歯科医の往診時に個々の状況の確認をして頂き指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつパターンを把握し、事前の声掛けや誘導を行い、おむつ使用や失敗を減らす支援を行なっている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄時を予測して早めに声かけをし、トイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツをはずすことができた利用者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の有無を確認し、食事・水分・軽運動等工夫している。また、下剤の使用については主治医相談のもと服薬介助を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間帯を定めず、利用者の希望に沿って入浴して頂いている。	利用者の希望に沿って入浴してもらっている。入浴を拒む人にはそれぞれの理由を把握したうえで、タイミングを図ることにより入浴を促している。柚子湯、菖蒲湯は利用者に好評である。同姓介助にも対応している。	

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、適度な運動を取り入れている。また、昼寝の促しや、就寝時間の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックや個々の服薬情報・副作用出現について共有し、把握に努めている。随時、身体面・精神面での変化等主治医との相談の上、実施検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴の中で役割を見出し、日常生活の活性化を促している。また、季節感を味わえるイベントを実施し、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑・庭園の手入れや散歩外出を促し、できる限り戸外へ出る機会を多く作っている。一人ひとりのペースに合わせ、リフト車も活用している。	一人ひとりの希望に合わせ、天気の良い日には散歩や買い物に出かけている。家庭菜園や玄関前の憩いの場も活用し、戸外に出る機会を作っている。同一法人の事業所の送迎車を使用し、馬堀海岸や油壺にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的な金銭管理はホームにて行っているが、買物等で支払う際は、ご自身に財布を持って頂き、一緒に支払いを行っている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話をご本人から掛けて頂いている。また、職員が代行するなどし、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔面に気を配り、食堂は常に利用者が寛げるように配慮している。また、季節感のある装飾等で工夫している。	共用空間は窓が広くて採光がよく、清潔である。玄関前の憩いの場や中庭の家庭菜園、テラス、ベランダではゆっくりくつろげることができる。壁にはクリスマスなどの四季の飾りつけを利用者とともに作り、飾っている。トイレや洗面台は広く、車椅子対応である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの談笑の場を確保している。また、屋外には喫煙場所も確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居の際、本人の使い慣れたものを持参して頂き、居室内は本人・家族の意見を取り入れ、居心地よく過ごせる環境にしている。	居室は日当たりが良く、クローゼット、洗面台、エアコンを備え付けており、利用者の馴染みの整理ダンス、テレビ、写真、ひいきの歌手のポスターなどが持ち込まれ、居心地よく暮らせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、トイレ・浴室・廊下等に手摺を設置し、利用者に適した環境整備を行っている。		

事業所名	グループホーム 興寿苑
ユニット名	グループホーム 興寿苑 2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板に理念を掲げ、共有しています。「その人らしい生活」を送って頂いているか、毎月の会議時に確認し、利用者の思いや意向に沿った支援の実現に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には、近隣住民と挨拶を交わしたり、町内会に加入し、回覧や町内会長から地域の情報を得ている。当ホームでの夏まつり・敬老会には近隣に声を掛け、参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の一員となるには、認知症の理解を得ることが急務と考えている。町内会の集まりで認知症に関する講座を設けることを、現在町内会長・民生委員と調整中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の事業者運営推進会議、年2回の地域運営推進会議を通じ、家族・民生委員・町内会長及び市、地域包括支援センターとの意見交換や要望を頂き、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年2回の地域運営推進会議の席や、直接市役所に出向き、相談に応じて頂いている。また市の担当部署主催の研修会に参加するなど、意見交換を行い、良好な協力関係を築いている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームの「身体拘束等行動制限についての取り扱い要領」に基づき、職員間で具体的な内容を周知・共有しケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には、必ず参加し、参加資料を職員間で供覧し意識を持って虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修等参加により理解しているが、成年後見人制度・地域福祉権利擁護事業等、十分な周知、理解は図れてなく活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除時には、利用者家族が安心して頂ける様、明確に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や、事業者運営推進会議時に、要望・意見をお聞きし、会議などので話し合い、運営に反映している。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が月1回の会議にて職員の意見や提案を収集し、法人内の運営会議にて代表者へ報告し、法人全体で共有し意見や提案を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の状況を把握する為に、運営者は年2回の自己考課表の提出を義務付け、管理者が適切に評価し、適材適所の配置を心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修会や、その他外部研修にも積極的に参加している。また、管理者が中心となりOJTを主体に日常的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区の4事業所合同で開催している地域運営推進会議では、情報交換や勉強会を行っている。また、横須賀市グループホーム連絡協議会主催の交換研修等に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に話を良く聴くことを大切にし、受容するように心掛けている。本人の不安や思いを受け止め、信頼関係づくりに努めている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にホーム見学や事前面接を行い、困りごとなどの傾聴を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応出来るものは即実行し、即実行不可能なものは、関係機関と連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を尊重し、人生の先輩として様々な指導を受けている。貴重な意見を生活環境の改善に役立てている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告・相談を常に行うことにより、共に利用者へ様々な視点から支援できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴等を十分把握した上で、面会時間や外出等の調整を行っている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々が孤立しないよう、職員が間に入り、利用者同士の架け橋になれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、様々な意見や相談を受け入れ、交流を継続している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族から生活歴等を聞き取ると共に、日常会話や表情・態度から本人の意向を読み取るように心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーからのケアプランや、利用前の本人、家族との事前面接をもとに、生活歴、暮らし方等、在宅生活の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体、精神面の状況を集約し、職員間において現状を各種記録表にて多角的に把握し共有している。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、様々な視点からの意見を取り入れ、利用者個々の状況に合わせた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、ケース記録等に記載し、記録と共に申し送りを行い情報を共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者や家族の目線に立ち、外出・外泊、リフト付車を用いて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々に、理美容や民謡等のボランティアにお越しいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者希望のかかりつけ医の継続を行い、個々の状態を把握に努めている。変化が診られる際には早期対応ができる体制を築いている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員及び協力医等からのアドバイスをもとに、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、協力医を通じ、また直接情報提供を行い、早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時及び終末期における介護が必要になった場合に、指針に基づき当ホームでの対応できる範囲を説明・同意を得て、常に医師、看護師及び家族との連携を図り、情報を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを用いて、対応するよう職員に徹底している。また救急法の研修にも定期的に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行うと共に、地域の方々にも協力依頼をしている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への配慮を心掛けた声掛けができるよう、採用時に接遇に関する研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望・自己決定を尊重し、本人の意思やレベルに合わせた支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と一緒に買物に出かけたり入浴時間など、個々の生活リズムに沿った支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる理美容サービスに月1回来て頂いている。またパーマ・毛染め等の希望の場合は近隣の美容院まで付き添いを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに合わせ、食事の準備や下ごしらえ、後片付けなど、職員と一緒にしている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を法人の管理栄養士に確認して頂き指導を受けている。食事摂取量及び水分摂取量を都度記録に記載し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて口腔ケアを行い、週1回歯科医の往診時に個々の状況の確認をして頂き指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつパターンを把握し、事前の声掛けや誘導を行い、おむつ使用や失敗を減らす支援を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の有無を確認し、食事・水分・軽運動等工夫している。また、下剤の使用については主治医相談のもと服薬介助を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間帯を定めず、利用者の希望に沿って入浴して頂いている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、適度な運動を取り入れている。また、昼寝の促しや、就寝時間の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックや個々の服薬情報・副作用出現について共有し、把握に努めている。随時、身体面・精神面での変化等主治医との相談の上、実施検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴の中で役割を見出し、日常生活の活性化を促している。また、季節感を味わえるイベントを実施し、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑・庭園の手入れや散歩外出を促し、できる限り戸外へ出る機会を多く作っている。一人ひとりのペースに合わせ、リフト車も活用している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的な金銭管理はホームにて行っているが、買物等で支払う際は、ご自身に財布を持って頂き、一緒に支払いを行っている。		

グループホーム 興寿苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、電話をご本人から掛けて頂いている。また、職員が代行するなどし、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔面に気を配り、食堂は常に利用者が寛げるように配慮している。また、季節感のある装飾等で工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの談笑の場を確保している。また、屋外には喫煙場所も確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居の際、本人の使い慣れたものを持参して頂き、居室内は本人・家族の意見を取り入れ、居心地よく過ごせる環境にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、トイレ・浴室・廊下等に手摺を設置し、利用者に適した環境整備を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム興寿苑

作成日 平成22年2月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自主訓練は行っているが、消防署・近隣住民参加の訓練は行っていない。近隣住民等が積極的に参加して頂けるよう、関係構築や環境整備が必要。	入居者個々の状態を把握し、慌てず落ち着き、安全に避難ができるようにする。	夜間災害の場合、夜勤者のみでは避難誘導は限界があるため、消防署・地域住民との連携を図り、定期的に避難訓練を実施する。	3ヶ月
2	26	入居者や家族の意見を更に取り入れ、介護現場に反映できるよう、モニタリング・カンファレンス等の方法改善への取り組みが必要。	言葉には出てこない（表には見えない）入居者本人の思いや希望を抽出し、今まで以上に充実した日常生活が送れるようにする。	入居者への接し方及び家族等、インフォーマルサービスを見直し、多角的に入居者を捉えた結果を基に、介護計画を作成する。	6ヶ月
3	8	日常生活自立支援事業や成年後見人制度等、権利擁護に係る事項が職員に対し理解・周知ができていない。	権利擁護に関する制度を理解し、入居者個々の状況に応じて支援できる体制を整える。	施設外研修に積極的に参加するとともに、施設内においても情報共有できる環境（施設内研修等）を整備し、職員全体で理解する。	12ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。